

平成30年度全国学力・学習状況調査における萩市の結果について（概要）

萩市教育委員会学校教育課

1 調査の概要

(1) 目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施期日

平成30年4月17日（火）

(3) 調査を実施した学校数・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	19校	324名
中学校第3学年	14校	326名

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・問題A・・・主として「知識」に関する調査
- ・問題B・・・主として「活用」に関する調査

※理科は「知識」と「活用」に関する問題を一体的に出題

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）
- イ 学校に対する調査（学校質問紙）

2 教科に関する結果

(1) 全体の結果

- 小学校では、国語Bと理科で全国平均を上回り、国語A、算数A・Bは全国平均と同程度であった。
- 中学校では、すべての区分において全国平均を上回った。

(2) 教科ごとの結果

区分	小学校			区分	中学校		
	平均正答率（％）				平均正答率（％）		
	萩市	山口県	全国		萩市	山口県	全国
国語A	71	72	70.7	国語A	78	77	76.1
国語B	60	57	54.7	国語B	64	61	61.2
算数A	63	64	63.5	数学A	69	67	66.1
算数B	51	52	51.5	数学B	49	46	46.9
理科	64	62	60.3	理科	69	67	66.1

(3) 各教科に見られる成果と課題 (○：相当数の児童ができている点 △：特に課題がみられる点)

【小学校国語】

- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと
- 話合いの参加者として、質問の意図を捉えること
- △話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること
- △目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと

【小学校算数】

- 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解すること
- 180° の角の大きさを理解すること
- △小数の除法の意味について理解すること
- △棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断すること

【小学校理科】

- 骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解すること
- より妥当な考えをつくり出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察すること
- △より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること
- △実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述すること

【中学校国語】

- 文脈に即して漢字を正しく読むことや、慣用句の意味を理解すること
- 話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問すること
- △目的に応じた文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと
- △目的に応じた文章を読み、内容を整理して書くこと

【中学校数学】

- 半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解すること
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えること
- △一次関数の意味や、証明の必要性和意味を理解すること
- △与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること

【中学校理科】

- 初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用すること
- 植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けること
- △風向きの観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用すること
- △植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘すること

3 児童生徒質問紙の結果

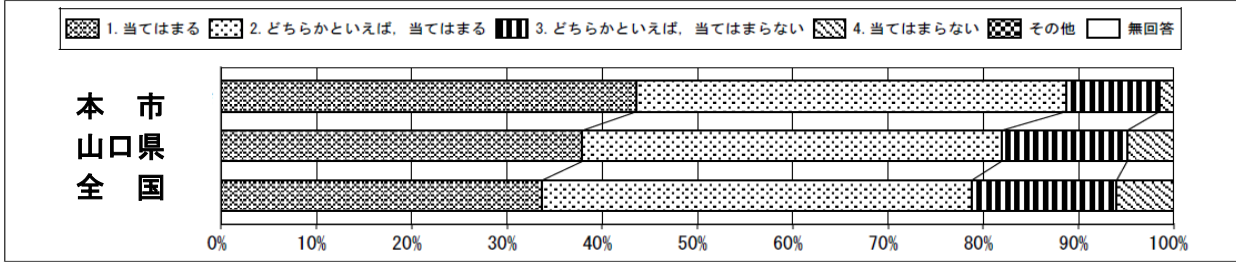
(1) 望ましい状況

○子どもたちの意識

自分にはよいところがあると思う中学生、将来の夢や目標を持っていると思う子どもの割合は、全国と比べて高い。

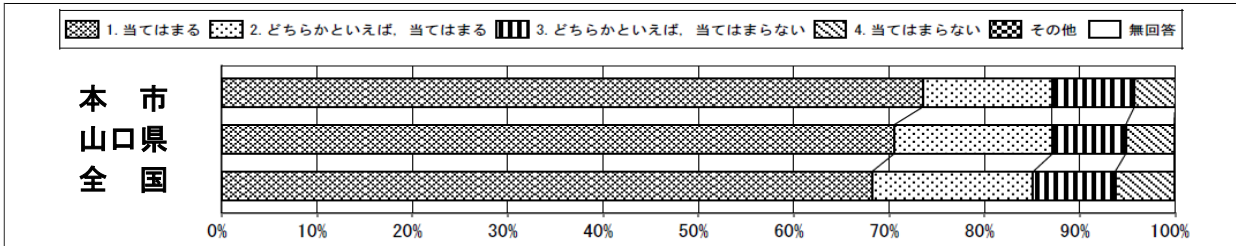
質問：自分には、よいところがあると思いますか。

【中学校】

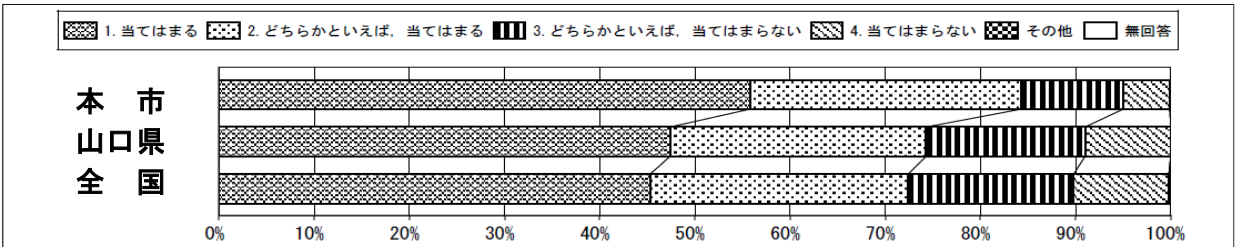


質問：将来の夢や目標を持っていますか。

【小学校】



【中学校】

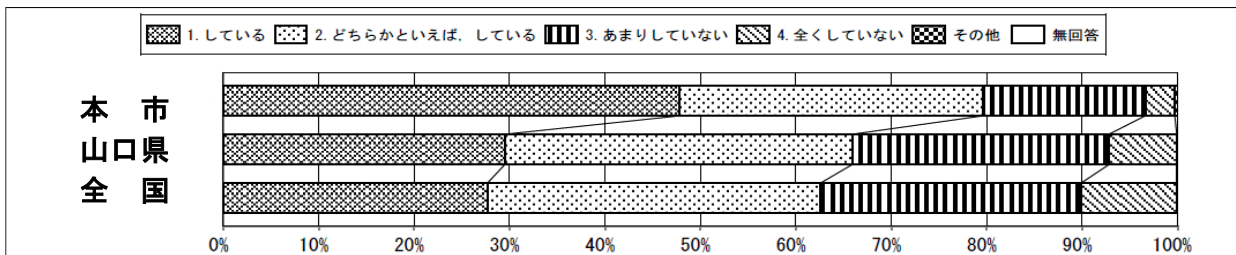


○家庭学習の充実

家で、学校の授業の予習・復習をする小学生や、自学自習において教科書を使いながら学習する中学生の割合は、全国や県と比べて高い。

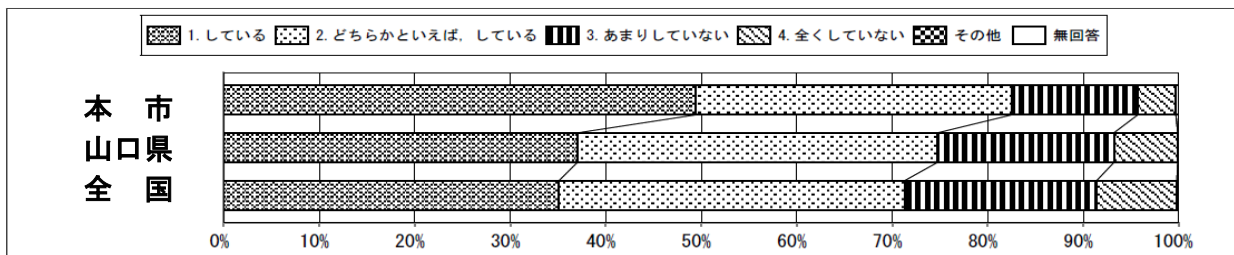
質問：家で、学校の予習・復習をしていますか。

【小学校】



質問：家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。

【中学校】

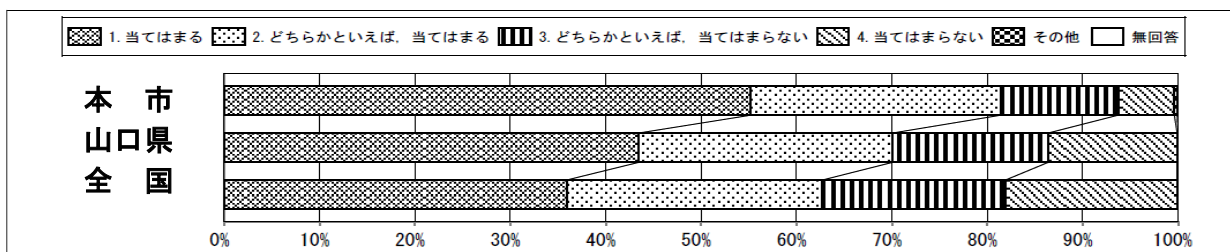


○地域との関わり

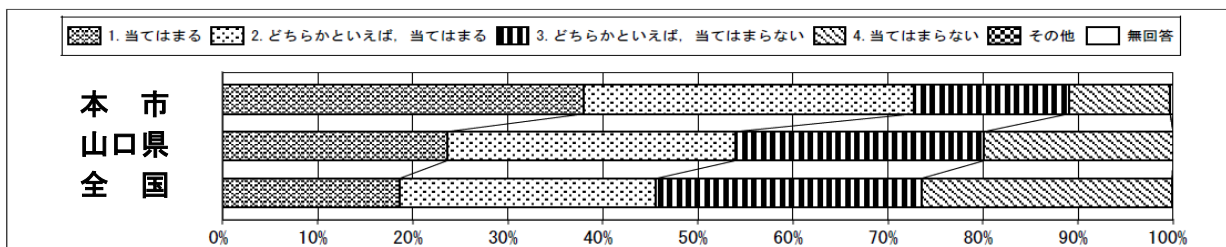
今住んでいる地域の行事に参加している子どもや、地域社会などでボランティア活動に参加したことがある子どもの割合は、全国や県と比べて高く、その傾向が続いている。

質問：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

【小学校】

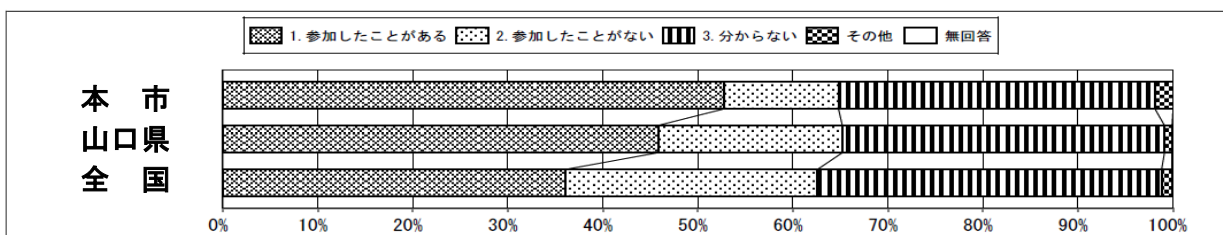


【中学校】

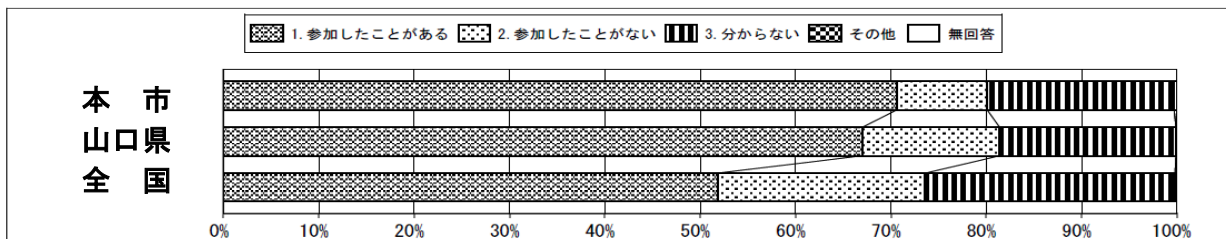


質問：地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。

【小学校】



【中学校】



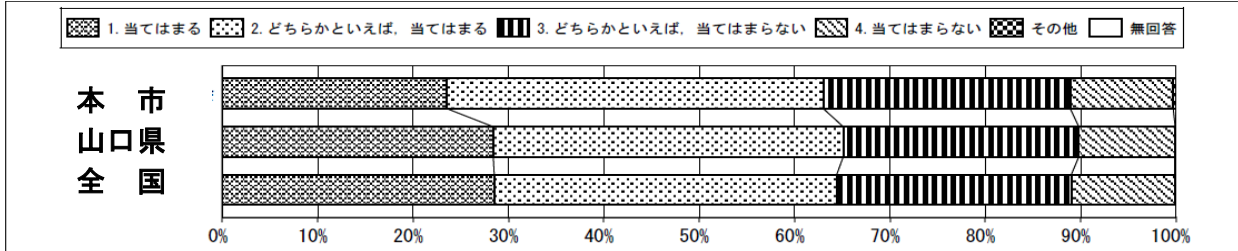
(2) 課題の見られる状況

○学習内容の活用

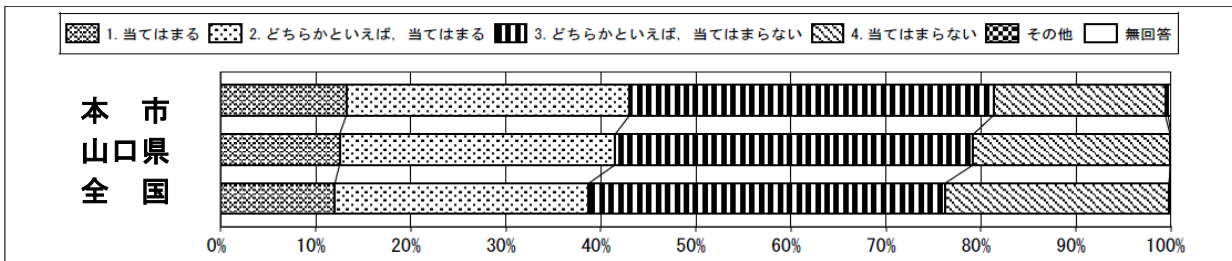
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える児童の割合は、全国や県と比べて低い。数学の授業については、全国や県と比べて高いものの、「活用できないかを考える」と答えた生徒は減少傾向が見られる。

質問：算数（数学）の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

【小学校】



【中学校】

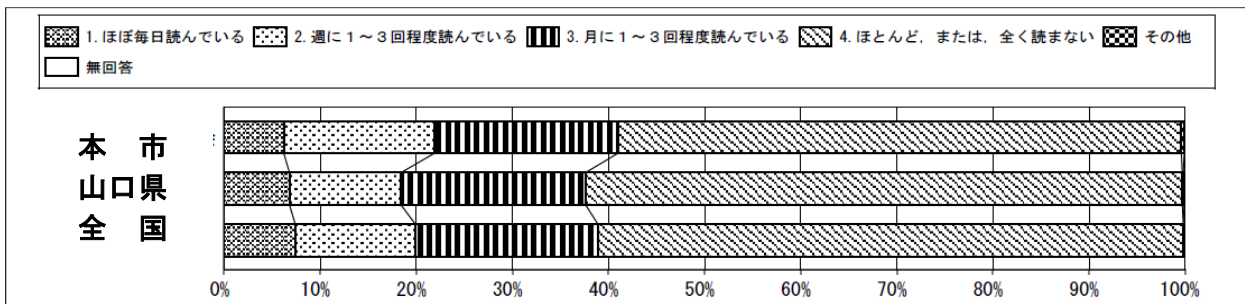


○新聞や本を読む習慣

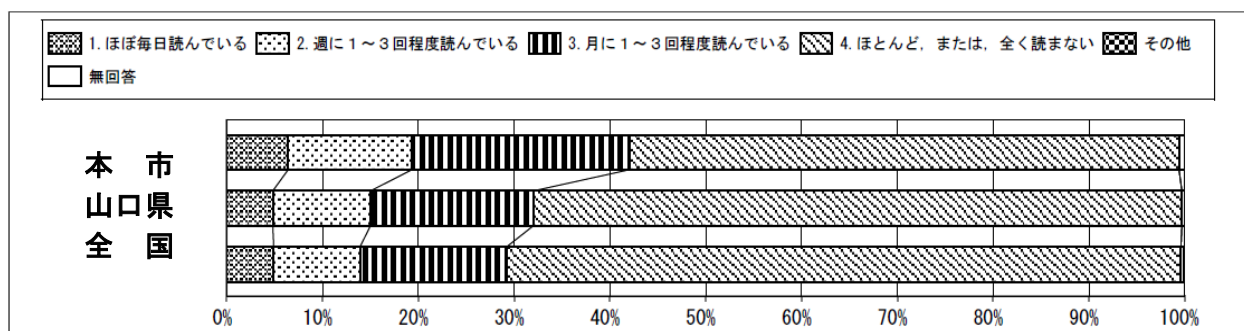
新聞を週に1回以上読んでいる子どもの割合は、全国や県と比べて高いが、ほとんど、または、全く読まない子どもの割合が、6割程度である。

質問：新聞を読んでいますか。

【小学校】



【中学校】



4 今後の取組

○学校全体での組織的な取組の充実

- ・全国学力・学習状況調査や県が実施する調査の結果を各学校で分析することにより、成果や課題を詳細に把握する。
- ・児童生徒の状況を踏まえた具体的方策の共通理解を図り、全校体制で実践する。
- ・校内研修の充実や積極的な授業公開を推進し、学力向上推進リーダー・推進教員、英語教育推進教員、複式学習指導員等を活用することにより、授業力の向上を図る。

○わかる・できる・楽しい授業の実践

- ・学習したことを繰り返したり、確かめたりする時間を設定したり、学習したことを用いて、他の課題や他の場面に適用する時間を設定する等、授業の中で習熟を図ったり学習したことを活用する活動を積極的に取り入れる。

○学校間・家庭・地域との連携

- ・中学校区において、課題等を共通理解するとともに、状況に応じて共通取組事項を設定する。
- ・コミュニティ・スクールや地域協育ネットの仕組みを活用し、学力における学校の課題等の共通理解を図り、必要に応じて地域人材の効果的な活用を推進する。
- ・家庭学習の習慣化に向けて、保護者への情報提供や啓発活動を推進する。